

わがはい 吾輩は猫である。

夏目漱石

殺伐とした文学的文章に颯爽とレベル1見出しが!!

わがはい
吾輩は猫である。名前はまだ無い。
どこで生れたかとうと見当がつかぬ。何でも薄暗いじめじめした所でニャーニャー泣いていた事だけは記憶している。吾輩はここで始めて人間というものを見た。しかもあとで聞くとそれは書生という人間中で一番憐悪な種族であったそうだ。この書生というのは時々我々を捕えて煮

て食うという話である。しかしその当時は何という考もなかったから別段恐いとも思わなかった。ただ彼の掌に載せられてスーと持ち上げられた時何だかフワフワした感じがあったばかりである。掌の上で少し落ちついて書生の顔を見たのがいわゆる人間というものを見始めであろう。この時妙なものだと思った感じが今でも残っている。第一毛をもって装飾さ

れべきはずの顔がつるつるしてまるで薬缶だ。その後猫にもだいぶ逢ったがこんな片輪には一度も出会わした事がない。のみならず顔の真中があまりに突起している。そうしてその穴の中から時々ぶうぶうと煙を吹く。どうも咽せぼくて実に弱った。これが人間の飲む煙草というものである事はようやくこの頃知った。

現れる!!!

そしてレベル2見出し も

この書生の掌の裏でしばらくはよい心持に坐っておったが、しばらくすると非常な速力で運転し始めた。書生が動くのか自分だけが動くのか分らないが無暗に眼が廻る。胸が悪くなる。到底助からないと思っていると、どさりと音がして眼から火が出た。それまでは記憶しているがあとは何の事やらいくら考え出そうとしても分らない。

ふと気が付いて見ると書生はいない。たくさんおった兄弟が一定も見えぬ。肝心の母親さえ姿を隠してしまった。その上今までの所とは違って無暗に明るい。眼を明いていられぬくらいだ。はてな何でも容子がおかしいと、のそのそ這い出し

て見ると非常に痛い。吾輩は藁の上から急に笹原の中へ棄てられたのである。

せめてもう少し文脈考 えろよ

ようやくの思いで笹原を這い出すと向うに大きな池がある。吾輩は池の前に坐ってどうしたらよからうと考えて見た。別にこれという分別も出ない。しばらくして泣いたら書生がまた迎に来てくれるかと考え付いた。ニャー、ニャーと試みにやって見たが誰も来ない。そのうち池の上をさらさらと風が渡って日が暮れかかる。腹が非常に減って来た。泣きたくても声が出ない。仕方がない、何でもよいから食物のある所まであるこうと決心をしてそろりそろりと池を左りに廻り始めた。どうも非常に苦しい。そこを我慢し

て無理やりに這って行くとうやうくの事で何となく人間臭い所へ出た。ここへ這入ったら、どうにかなと思って竹垣の崩れた穴から、とある邸内にもぐり込んだ。縁は不思議なもので、もしこの竹垣が破れていなかったなら、吾輩はついに路傍に餓死したかも知れんのである。一樹の蔭とはよく云ったものだ。この垣根の穴は今日に至るまで吾輩が隣家の三毛を訪問する時の通路になっている。さて邸へは忍び込んだもののこれから先どうして善いか分らない。そのうちに暗くなる、腹は減る、寒さは寒し、雨が降って来るという始末でもう一刻の猶予が出来なくなった。仕方がないからとにかく明るくて暖かそうな方へ方へとあるいて行く。今から考えるとその時はすでに家の内に這入っておったのだ。ここで吾輩

は彼の書生以外の人間を再び見るべき機会に遭遇したのである。第一に逢ったのがおさんである。これは前の書生より一層乱暴な方で吾輩を見るや否やいきなり頸筋をつかんで表へ抛り出した。いやこれは駄目だと思ったから眼をねぶって運を天に任せていた。しかしひもじいのと寒いのはどうしても我慢が出来ん。吾輩は再びおさんの隙を見て台所へ這い上った。すると間もなくまた投げ出された。

吾輩は投げ出されては這い上り、這い上っては投げ出され、何でも同じ事を四五遍繰り返したのを記憶している。その時におさんと云う者はつくづくいやになった。この間おさんの三馬を偷んでこの返報をしてやってから、やっと胸の痞が下りた。吾輩が最後につまみ出されようとしたときに、この家の主人が騒々しい何だといったながら出て来た。下女は吾輩をぶら下げて主人の方へ向けてこの宿なし

の小猫がいくら出しても出しても御台所へ上って来て困りますという。主人は鼻の下の黒い毛を撚りながら吾輩の顔をしばらく眺めておったが、やがてそんなら内へ置いてやれといったまま奥へ這入ってしまった。主人はあまり口を聞かぬ人と見えた。下女は口惜しそうに吾輩を台所へ抛り出した。かくして吾輩はついにこの家を自分の住家と極める事にしたのである。

そして現れる夏目漱石『こころ』モドキのマルコフ連鎖生成テキスト！！！！

しかし食事の時気分が悪いと思っていた。

けれどもその表情の中に坐っているのだとも考えていなかった。私は好い加減な生返事をしてまた奥さんを顧みた。けれども再び顔をあげた時は何でそうたびたび私のような気もするのです。あるいは私の脳髓よりも、私を取り巻く人の運命がどう変化するか分かりませんけれども、Kさんが生きているうち、――私は実際お気の毒に思っていた私の顔を見ないのです先生の言葉の底に沈んだまま、腐れかけていた。奥さんは二、三人、これも休暇のために酒を止めろと忠告しました。無論先生と奥さんから聞かされた私は、とてもできないという点からいえば、従妹を貰わない方が好いと答えて、ずんずん水道橋の方へ駈け下りて行ったのですが、彼らを憎むばかりじゃない、もともと君の方からつかつかと私の心を支配するのである。私にいわせれば、先刻はまるで不意撃に会った時、奥さんは別に行く所もなかった。学問をさせると、彼は必ず激するに違いないが、そこへ来て、残らず眼を通しただけで、これから何を話しているのを厭がりますし、その婆さんがまた正直でなければ伯父からか、呼ばれるに極っていましたが、そこへ来ると将基盤は好いね、こうしているつもりですそりゃ解り切った話だね。私はわざ

とKの室に差し込みました。それでもKは私より外に途はなかった。自分で自分を鞭うつよりも、ずっと下卑た利害心に駆られて、穴に入った蛇のように思っていた。玄関を上がって、本郷台へ来て私の神経はだんだん麻痺して来るだけです。分り切ってるとおっしゃるんですかとかいってくれという句もありました。奥さんは私の過去とを、幾度か繰り返して眺めた。人は自分の過去を残らず、あなたに聞いたせいでしょ。私が夢のような健康体になる見込みのない事をちよっと断わっておきたいのです。名もない人、何も知らないで平気でいるのも、その場で話しているうちに、しんと静まりました。私の顔の上にもあった。国から旅費を送らせる手数と時間を省くため、私はまだ復讐をせずにいる。

その父が、母の機嫌を損じたりするよりも、

ただ軒先に据えた大きな鉢の中にいるものは、全く肉の臭いを帯びて遠い九州にいた。世の中では否応なしに自分の足の運びの鈍いのに気が強くなりなんだよといったざり対応をしない事に、神経を悩まさなければならぬ多くをもっていなかった。二人は彼の姉の夫からも立つという報知があった。すると先生が窓の下へ出ました。そうなれば私だって、月給こそ貰っちゃいないが、ちょっとした風邪などはかえって厭なものは断る、断

ってはいって、私より世間を知っていたのです。私は暑くて草臥れて、それからこう付け足した。

しまいには有っても無くても

構わなろうというような偉い方なら、きっと何か口を探している人もありますし、それほど気にしないですよと答えた。私は新聞で乃木大将の死んだ時も、私は微臭くなった古い冬服を行李の中から出して来た。今まで何遍も自分の夫の所へ出掛けて、私はこれから先生と懇意になったから、それでなければ心配だし、といった。こういう気楽な人の中に、私はどうしても今だと思うようになった。なぜそんな事を急に思い立ったのかという疑問に会って話をする気でその宅へ出入りをするのが専一だと考えて、ともかくも翌日まで待とうと決心しました。私は先生といっしょに卒業したのです。しかし中には、一言の返事さえ受けずに葬られてしまった。たしか十月の中頃だと思いますそれもそうね。記憶していないだけで、火種さえ尽きているのです。永年住み古した田舎家の中に寝起きしているのだから分かりませんでした。奥さんは取り付き把がないといわれるくらいで、草書が大変上手であった。けれどもお嬢さんを見る私の眼にどう映りますかねと聞かれた事を記憶している縫針だの琴だのを擦り剥くのです。

どうしてページ下部にスペースがないんですか？

失礼のようだがどのくらい辛かったかは想像するまでもない事と思います。親の遺産として辛かったからです。けれども余り込み入った手を弾かないところを見ると、それが宅の格子を開けて見ようという目的ができたのか、医者へでも行っているんですかねという訳を強い言葉ではありませんでしたが、極めて小さな声で、実はどうでもよくないじゃありません。

- 先生は白緋の上へ鄭寧に先生の書齋へ案内した。
- ある時はお嬢さんの事であった。
- それで無理に機会を捨てていない人であった。

厭なものはない。

しかし自分で自分を裏切るような不自然な態度が私を誤解するのです。無論一つ

問題をぐるぐる廻転させるだけで、満足はできないという挨拶を即座に与えてくれました。もし私が彼を説き伏せたところで、どのくらいの功德になるものである。眼のうちに成人した気でいた。利害問題から考えてみると、どう思うのです。日本の習慣としての私はたといKを騙し打ちにしていまいしました。奥さんは私の思想とか意見とかいう言葉も、そ

の時の私の判断はむしろ否定の方に重なり合っているのか、まるで私の気分がまた変わっていないように考えられちゃ少し困りますしかし卒業したのです。

私は咄嗟の間に横たわる思想の不平均という考えが、それほど当夜の会話を重く見ていたのです。Kも私もまだ学校の始まらない頃でしたから、同じものを今度はKの遺骨をどこへ埋めるかについてどう考えているらしかった。私は無論Kの敵でないという事をここに残して行く気にはなりません。私は猛烈な勢をもっていないでしょう。これしきの病気についてのみ優柔な訳も私には、あまりに実際的なのに驚いたくらいです。何かに死んだ試しはないんだとも考えた。潔癖な父は、単なる娯楽の相手としている事をとうから自覚していたくらいでした。しかし先生の方で帯びるのが至当になるくらいな語気で私はただ誠実なる先生の批評家および同情家としての私には、筋の立った理屈はまるでなかったのです。それでいて六畳の間の中で抱き合いながら、外を眺めるようなものはないのです。私は帰った当日から、あるいはこんな事に掛けてはまるで無知識であった。私のこれから取るべき態度を決する前に、まず自分を軽蔑したとわかないばかりの顔を

を私から放しません。その関係からでない事は、私を見て、羨ましがりました。実をいうと、あなたの胸に新しい命が宿る事ができるでしょう。電車の通路になって来ました。赤い色だの藍の色を、面白い現象の一つで済まして皆の眼に映った先生というのは叔父の娘と私との間には何ともいって来ませんでした。ことに室の中をぐるぐる回って、このお嬢さんの呼びに来るのを待ちました。それでも少時返事ができないんでしょうそれが解らないの。また来ました。しかし私はKの動かない様子を書いて恩借の礼を述べた。

だからなぜそうたびたび来るのか

といわれればそれまでです。Kはそうではないと答えたような悪人は世の中にあるはずだから、他のものにも、まだ好い口がないと思って、毎夜床にはいった。お上さんはいいえお構い申しも致しませんが退屈でしょういいえ。私は何でそうたびたび私の宅へ来た時、私は静かに席を立とうとしたのは十二時過ぎであった。私はこの誤解を解こうとはしません隠していられっしやいますあなたは私にも

いっしょに伴れて行っても二十銭は取られた。立つといい出すと、人情は妙なものでなければ、眩暈も嘔気も皆無な事などを書き連ねた。酒は止めたけれども、彼の言葉が私の背後で打ち合せをした。私はまた父がいつ斃れるか分らないというよりも、聊か拍子抜けの気味であった。奥さんはとにかく、お嬢さんにも頼みました。午食の時、またその監督者たる奥さんにも、別に判然した時にも、もう一番やろうといった方が好いと思ひ込んだら、なかなか私のいう事に気が付いて、過半はそこで失望するのが当り前だろうともいいません。私は倒まに頁をはぐりながら、私に帰ってくる間までの留守番を頼んだ。私は半日を丸善の二階で、遠く走る電車の音を聞いて当惑そうな顔ばかりであった。この口も始めは自分の生れた日には連れ立って宅を出ます。私は張合いが抜けたという義理が加わっているからでもありませんでした。

1. そうした方面の知識を、快く思っていた。
2. ところがその帽子の裏にも、力強くあったのです。
3. のみならず、はなはだ所置に対してもっていた。

451 Unavailable for Legal Reasons

ctes091x

意味はないけど長い文章を書くのだって結構苦勞するんだよ? こうやってヘッダのダミーテキストを書くのも大変だし。

概要

「法的理由により取得不可」を示すHTTPステータスコード。	国家による検閲が行われたコンテンツ、著作権やプライバシーの侵害、不敬罪、安	全保障上脅威となりうる内容、その他違法な内容等にアクセスした際に返される。
-------------------------------	---------------------------------------	---------------------------------------

由来

「451」という数はレイ・ブラッドベリのディストピア小説『華氏451度』に由来する。 『華氏451度』は、本の所持が違法化された世界で、隠匿されていた本を焼却処分する「昇火士(ファイアマン)」のガイ・モンターグの運命が奇妙な少女や本に執着する老婆らとの出会いを通じて大	きく変わる様を描いているSF作品である。 HTTP/1.1 451 Unavailable For Legal Reasons Link: <https://search.example.net/legal>; to the locked- Content-Type: text/html <html> <head><title>Unavailable For Legal** Reasons</title>	<body> <h1>Unavailable For Legal Reasons</h1> <p>Details Request may not be served due to the locked- access to resources hosted & operated by the People's Front </body>
---	---	---

考察

国家による検閲が行われたコンテンツへのアクセスに対しては、検閲を受けたという事実そのものが検閲されることにより、451ではなく単にアクセスが禁止されていることを示す「403 Forbidden」や、	その存在を隠す意図をもって「404 Not Found」のコードが返されるということが大いに考えられる。 この「451 Unavailable for Legal Reasons」のコードの存在からは、国家権力による	インターネットの検閲を絶対に許さないという、本来の意味での「ハッカー」たちの強い想いを感じとることができるであろう。
---	---	--

参考文献

• MDN Web Docs 「451 Unavailable For Legal Reasons - HTTP MDN」 https://developer.mozilla.org/ja/docs/Web/HTTP/Status/451 (2022/08/09 閲覧)	• ウィキペディアの執筆者たち「HTTP 451」『フリー百科事典 ウィキペディア日本語版』(2022/08/09 閲覧)	• レイ・ブラッドベリ『華氏451度 新訳版』(早川書房,2014)
---	---	------------------------------------

セルオートマトンはいいぞ。

はじめに

ダミーのテキスト書くの楽しい！！()

まだ書いてないですがダミーのテキストを入れておきます。深い意味はありません。

ん。でもこのレイアウトちょっとまずいかもしれません。各セクションにそれなりの長さがないと極めて読みづらいレイアウトになってしまうので…まあでもこれくらいの分量があればとりあえずは読

める程度のブロック高を確保できるのでよしとしますか…

ちょい待ち

これ改ページ発生したときにくたばったりしないかな…

セルオートマトンとは？

ライフゲームで遊ぶ

まずはイメージを掴むために、コンピュータのライフゲームで遊んでみよう。

ライフゲームのルール

ここまででおおよそイメージを掴めたい。ライフゲームでは、空間はマス目状に区切られている。全てのマスは白か黒のいずれかの色に塗られている。白マスの上下左右斜め8マスのうちちょうど3つのマスが黒であるとき、その白マスは黒に変わる。黒マスの周囲に黒マスが2個または3個あるときには、その黒マスは黒で居続ける。これ以外の状態では、マス

は白となる。マスの色は全て同時に更新される。

ライフゲームのルールはしばしば、生物の繁殖の特徴にも例えられる。ちょうど3つの黒マスが白マスを囲むことによって、新たに黒マスが誕生する。生きている黒マスは適度な密度においてのみ維持され、過疎になっても過密になっても死に白マスに戻ってしまう。誕生と死の程よいバランスによって、ライフゲームの独特な振る舞いが発生する。

用語の導入

以降の記述を円滑にするために、いくつかの用語を導入しておこう。

セル：セルオートマトンにおける空間の最小単位。1マス。

状態：セルの「色」。以降では、数字や各状態の特性に応じた名称で呼ぶ。

近傍：状態遷移の際に、各セルが状態を見る「周りのセル」。

パターン：

初期条件：セルオートマトンを開始するときに与えるパターン。

世代：セルオートマトンにおける時間の最小単位。

よく現れるパターン

基本セルオートマトン

基本セルオートマトンとは？

図_は、ルール30基本セルオートマトンの時間発展を表す図である。ここまでで扱

ってきたライフゲームが2次元に広がる空間で進行していたのに対し、基本セルオートマトンは1次元の空間で進行する。初期条件を一番上の行に置き、その下に1世代後の状態、2世代後の状態、…を縦に並べたものである。

基本セルオートマトンのルール

基本セルオートマトンにおいて、各セルの近傍はその両隣である。ルール30においては、

複雑性による分類

ング完全性

ルール110のチューリ

セルオートマトンにおける難問

エデンの園配置

エデンの園配置は、それを生み出す初期
パターンが存在しないようなパターンを

指す。

汎周期性

その他のセルオートマトン

ラングドンのループ